

(8) 総合的な学習研究会

会 長 益永 美佳 (中村南小)

副会長 濱口 洋人 (中村小)

事務局 谷口 由紀 (西土佐小)

1. 研究主題 「探究的な学びを実現する総合的な学習の時間の進め方」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和5年 5月9日 (火)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題決定、年間計画	中村中学校	12名参加
令和5年 8月4日 (金)	四万十市教育研究会 夏季研究会 内容：9年間を見通した指導計画・単元構想についての話 し合い	中村中学校	14名参加

3. 夏季研修の具体的な内容

昨年度からの課題であった「小中連携」と「児童の主体性を引き出す単元構想や指導計画」「地域とのつなぎ方」などについて、各校の年間計画や単元計画を持ち寄って、各中学校区での総合的な学習の時間の授業づくりについて話し合った。また、総合的な学習の時間を進める上での悩みを出し合い意見交換を行った。その後、児童の主体性を引き出すためには、教師がどのように地域のフィールドワークを実施し、教材研究・単元づくりを行っていくのかを考えた。また、小学校や中学校で授業を進めていく際、どのようなことを大切にしながら学習を広げていけばいいのかについて、教科横断的な視点に立つて行う必要性を確認した。

4. 今年度の成果と課題

【成果】感想より

○小中で具体的な授業の話し合いができ、一貫した指導の重要性を理解できた。普段はなかなか話し合う機会が無いので、今回のように話し合いの時間をとっていただけたことが大変参考になった。また、管理職の先生からの確かなアドバイスを受けることができ、自分になかった総合への意識が芽生えた。地元地域を知ることに加え、どのような視点で総合を深めていくことが大切なのかを知る良い機会になった。

○各校の悩みを出し合い、共通点について掘り下げて協議ができたので、学びが多かったように思う。小中の9年間の学びを見据えた話し合いができたのは大きかった。

○フィールドワークなどを行い地域について教材研究するときには、地理的・歴史的な時間軸の見方の視点を持つて行うことが分かった。また、体験から学習展開を行い、地域の人々とつなぐことを仕組むことで、児童の知識の量や質を高めることにつながると分かった。

【課題】

●統廃合などにより、中学校区が広がり、小学校同士の情報交換をどうしていくのか。

●計画などの学年団同士のすり合わせをどうしていくのか。

【次年度に向けての方向性】

・今回の学びをどう生かし、改善を図っていったのか、次年度は報告し合える場となると良いのではないかな。

The chalkboard contains the following handwritten content:

- 課題設定の仕方**
 - ゴールを決めてから計画を立て
 - ズレ → 教師がフィールドワーク
 - 不思議と思う視点、広げず、おぼく
 - 中学校は世界に広げる
 - 社会科が外になる
- 準備 (アウトプットまでの) 計画と考える**
 - 体験 + 人とのつながり
 - ↓ 地域の思いを知る
 - 知識の量、質
- 現代に広げる** (with arrows pointing to '歴史 地理的')
- 中学校 教員の円い話し合い** (circled)
- 準備 (アウトプットまでの) 計画と考える** (circled)
- 知識の量、質** (circled)
- 子どもが探究タイムと寄り添っていくのが大切** (circled)
- Digital clock: 5:00